

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
くめざす児童像 ・(か) 体をきたえる子 ・(もっ) 目標をもってがんばる子 ・(こ) 心やさしい子 (指導の重点) (1) 互いに認め合い、支え合う心をはぐむ指導 (2) 主体的な学びで学力をつけ、友と学ぶ喜びをもたらす指導 (3) 健全な心と健康な体をはぐむ指導	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 C 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 C 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 C 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 C 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 D 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 E 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語Aと算数A、理科は、平均正答率が県および全国平均を上回った。国語ではとくに「読むこと」の領域が高く、算数では「図形」の領域が高かった。 ○国語Bと算数Bは、平均正答率が県および全国平均とほぼ同じ。国語では「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。 県 ○3、4、5年のどの学年においても、国語と算数の平均正答率が県および全国の平均正答率を下回っている。 「国語」 ○「言語についての知識・理解・技能」はどの学年においても、県および全国の平均正答率との差が比較的少ない。 ○3、5年は「書くこと」の領域が県の平均正答率に比べて低い。文章の構成を考えたり、求められている情報を取り出し、適切な言葉で表現したりすることに課題がある。 ○4年は「読むこと」の領域が県の平均正答率に比べて低い。 「算数」 ○どの学年においても基本的な知識や理解が十分身につけていない。 ○3年は「数と計算」の領域が県の平均正答率に比べて低い。数の大小と不等号の意味の理解が不十分である。 ○4、5年は「図形」の領域が県の平均正答率に比べて低い。円の半径や四角形の対角線についての理解が不十分である。	【学習状況調査の結果】 ○「自分が住んでいる地域が好きである」「地域の行事に参加していた」という質問に対し、肯定的に答えた児童の割合が県平均より高かった。 ○「放課後など、授業時間以外に先生から勉強を教えてもらうことができましたか」という質問に対し、肯定的に答えた児童の割合が県平均より高かった。 ○「学校に行くのは楽しい」という質問に対し、肯定的に答えた児童の割合が県平均より高かった。 ○「学校の宿題をしていた」という質問に対し、肯定的に答えた児童は100%だった。 ○平日のテレビ、ビデオ、DVDを見る時間が、4時間以上と答えた児童の割合が県平均より高かった。 ○平日のスマートフォン、インターネットの使用時間が、4時間以上と答えた児童の割合が県平均より高かった。 ○家庭学習の時間は県平均並で、昨年度とあまり変わらない。 ○読書の時間は県平均と比べて短いが、昨年度と比べると増えている。 ○あいさつについては、県平均並である。

成果	課題
○6年の国語A、算数Aは県および全国平均を上回っていることより、これまでの学年の積み上げがきちんとでき、基本的な学力が身に付いている。家庭学習や自主学習に意欲的に取り組んだ結果と考えられる。 ○昨年度、改善プランを職員で共通理解することで、書く活動を意識した授業づくりが定着してきている。 ○地域ボランティアやを活用しての授業や地域を題材にしている授業が多くある。そのため児童が地域の文化や行事に関心を持つことにつながっている。	○算数では、前学年までの学習の定着が十分にできていない。前学年までの復習をして、もう一度学習の積み上げをしていく必要がある。 ○問題の後半や記述で答える問題の無回答率が高くなる。テストに取り組む時間配分や、長文の問題を読みこなす読解力に課題がある。 ○家庭学習に対しての意識は高いが、取り組み方の工夫や予習、復習、自主学習など、内容の充実が課題である。 ○メディアやゲームの時間が多い傾向にあるので、これまでも取り組んでいた「ノーメディア週間」をさらに充実させ、保護者にも呼びかけていく必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月未現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
書く力の育成	3月まで	自分の考えや感想、理由などを重要な語句を含めたり、字数に合わせてたりして書くことができる。	・授業の中で書く時間を確保し、自分の言葉で書く習慣を身につけるようにする。 ・授業の振り返りを書くようにし、学習内容の理解を深めるとともに表現する力を養う。	授業の振り返りを書く時間を、意識的に確保するようにした。振り返りを書くポイントや順番を表す言葉、適切な接続詞などを示しながら、振り返りに取り組ませたい。	C			
前学年までの復習	3月まで	全学年 県学テの基礎問題の平均正答率を県平均に近づける。	・問題データベースなどを使い、間違いの多かった単元や、十分に身につけていない単元を復習する。 ・朝学習の時間や日々の授業、宿題などで、意識して積極的に取り組む。	朝学習の時間などを使い前学年の復習をしたり、新しい単元に入る前に関連のある内容のプリントをしたりした。秋チェックで間違いの多かった問題を復習した学年もある。	B			
家庭学習の定着と充実	3月まで	全学年 宿題の提出率を95%以上にする。	・家庭学習の取り組み方について、校内の共通理解を図り、徹底する。 ・家庭学習の手引きを使い、児童に宿題や自主学習の取り組み方を指導し、保護者へも協力を依頼する。	各クラスの宿題の提出率は95%を上回っている。「家庭学習の手引き」を2学期の参観日後の懇談会で保護者に説明し、家庭にも呼びかけることができた。	A			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県学テ、全国学テの分析と考察を行い、加茂中学区の子どもの学力について小中の職員で共通理解を図る。 ○小中でお互いの授業を参観する機会を設ける。 ○学校生活のきまりや学習規律、授業づくりの視点を共通理解する。 ○家庭学習のあり方や家庭学習の手引きについて協議し、小中の接続を研究する。	○家庭でのテレビやゲーム、スマホの時間を少なくするために、保幼小中と地域と連携した取り組みとして、「ノーメディア週間」をPTAの重点施策として、年に5回取り組む。カードを工夫し、保護者にコメントを書いてもらうようにしている。 ○児童が読書の習慣を身につけられるよう、学校だよりやPTAの会などで話題に取り上げ、協力を求める。